

編集後記

埼玉協同病院 教育研修室

2018年度 レジデントデイ開催報告 **根岸千尋**

2016年度から開始したレジデントデイも今年で3年目となりました。今年は家庭医・総合診療専攻医だけでなく内科専攻医も参加したり、新たな指導医が増えたりと、活発なレジデントデイとなりました。

次年度は、埼玉県内で総合診療医・家庭医を目指す専攻医にも声をかけ、参加してもらえるように働きかけていければと考えています。

熊谷生協病院

第4回 埼玉ポートフォリオ発表会 **紀田嘉彦**

当日は司会という大役を仰せつかっておきながら準備不足で事務局の皆様にご迷惑をおかけしたことを猛省しております。

埼玉協同病院 教育研修室

プライマリ・ケア学生実習報告 **千葉翔太**

プライマリ・ケア学生実習の受け入れは学生さんにとっても各院所にとっても有意義なものであったと思います。これを起点とした学生さんと医療生協さいたまのコラボ企画を今後とも検討していきたいと思います。

熊谷生協病院

第2回SGFAM プライマリ・ケア講習会 **鶴本里香**

講習会に参加して日々の対応の中での気づきを大事にしたいと思いました。他の参加者の方からも「事前アンケートに沿った内容で実践的な講習会だった」「今日学んだことを持ち帰り伝達学習します」などの声が聞かれ、大変充実した講習会でした。今後はトリアージ訓練を定例化し、全職員が共有できるような仕組みづくりが必要だと感じました。

埼玉協同病院 教育研修室

第30回 学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー **戸田美咲**

最初はスタッフ全員がTRPGを使ったWS開催に不安いっぱいでしたが、準備を進めていくうちに、色んなアイデアが次々と溢れ、開催日前日までゲームシナリオを修正し、関わるスタッフ自身が楽しんでWSを作りあげることができました。特に中心となって頑張ってくれた先生方、本当にお疲れ様でした。

医療生協さいたま SGFAM

芦野 朱

無事に年次報告書を発行でき、ご協力いただいた関係者の皆様には感謝いたします。

SGFAMは『総合診療医・家庭医の医師養成を基盤に、プライマリ・ケアを実践する医療介護者の教育・普及活動』を目指しています。SGFAMが皆さんにとって身近な存在になれるよう、引き続きご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

Annual Report 2018

さいたま総合診療医・家庭医センター
年次報告書

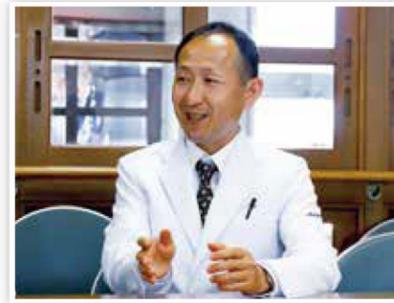
2018

2018年度(2018年4月~2019年3月)



「2018年度はプライマリ・ケア元年」

総合診療専門医が19番目の専門医として認められ、研修制度が始まりました。色々な課題は山積みですが、まずは専門医のための後期研修制度がスタートできたことは大変喜ばしいことです。加えて、へき地研修の指定については県議会でも取り上げられ、県知事も自ら答弁するほどの話題となり、その結果、秩父地域だけでなく、北部地域(熊谷、本庄、深谷など)、利根地域(行田、加須、久喜、蓮田など)も医師数の少ない地域として認定されたことは埼玉県民として喜ばしい(!?)ことだと考えています。医師の少ない地域では多職種連携が発達して医師不足をカバーしています。1人でも多くの総合診療の専攻医が秩父・熊谷・利根地域で診療を経験されることを願っています。



SGFAMセンター長
関口由希公
さいわい診療所 所長

さて私たちSGFAMの5大ニュースをご紹介します。

- ① 久志本舞衣子先生が家庭医療専門医の試験に合格して、『家庭医療専門医』となりました。
- ② 三輪佳雅先生が1年半の診療所マネジメントプログラムを卒業し、開業(継承)しました。
- ③ 高橋慶先生が川口診療所に着任し、臨床と教育に関わってくれました。
- ④ 松村憲浩先生が総合診療プログラム、第1号の専攻医となり、埼玉協同病院で研修をはじめました。
- ⑤ 熊谷生協病院の総合診療専門医研修プログラムが認定を受けました。来年度から専攻医を1名迎えることが決まっています。



世界的にプライマリ・ケアの重要性は認知されています。Starfield*の一連の研究では、プライマリ・ケアが充実すると、健康アウトカムが改善し(乳幼児死亡、心血管死亡など)、医療費が低減し、健康の不公平(格差)が改善すると報告しています。少子高齢化の問題に加えて、医療費が増え続ける社会において、これからますますプライマリ・ケアのニーズが高まっていくでしょう。

*<http://www.globalfamilydoctor.com/InternationalIssues/BarbaraStarfield.aspx>

医師数の少ない埼玉県でどうやって総合診療医、家庭医を増やしていくか。

それには新しい専攻医の研修を成功させることが不可欠です。そのためにも、埼玉のプライマリ・ケアに携わる人々がネットワークを作りオール埼玉で研修を成功させることが大切です。

また自分たちの臨床のレベルアップをするために、プライマリ・ケアの臨床や研究を共有し、そのエビデンスを証明することも有用です。個人的には臨床をしながら通えるプライマリ・ケア疫学コースなど、大学等のカリキュラム開発を期待しています。

さらにはプライマリ・ケアの指向をもつ内科専門医や他科の医師を巻き込んで、プライマリ・ケアの層を厚くしていくことも必要になるでしょう。

医師数の少ない埼玉でこそ、総合診療医・家庭医が必要です。みなさんとともに挑戦していきたいと思います。

目次 contents

SGFAM概要	1	第4回 埼玉ポートフォリオ発表会	
センター長挨拶	1	【プレ企画】第2回・SGFAM プライマリ・ケア講習会	9
ミッション・ビジョン	2	第30回 学生・研修医のための家庭医療学夏季セミナー	10
医療生協さいたま事業所紹介・教育施設紹介	3	プライマリケア学生実習	10
SGFAM 研修プログラム紹介	4	第9回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会	11
2018年度 SGFAM企画開催・活動一覧	5	第7回 日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会	11
2018年度 レジデントデイ開催報告	6	2018年度 SGFAMジャーナル	13
臨床実技試験(CSA: Clinical Skills Assessment)模擬試験	7	指導医・レジデント・研修施設案内	14
		編集後記	15



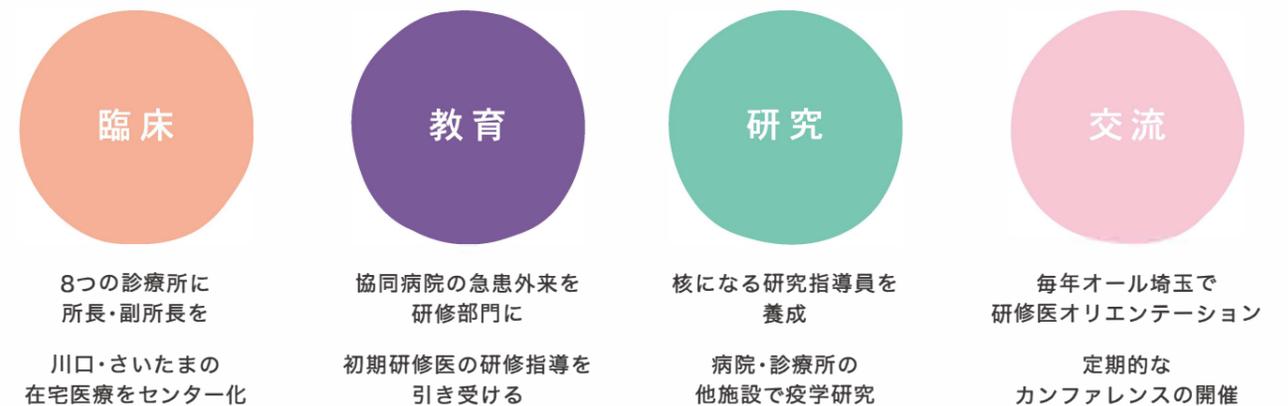
SGFAM 2つのミッション

さいたま総合診療医・家庭医センター

医療生協さいたまの総合病院で働く総合診療医と診療所で働く家庭医が連携し、お互いの長所を生かしながら、それぞれの力量をアップさせること。

埼玉の総合医・家庭医を増やすこと。

SGFAM ビジョン





教育施設紹介(病院群)

病院名	埼玉協同病院		
研修指導医	● 山田歩美 ● 稲村充則	● 忍 哲也 ● 平澤 薫	● 久保地美奈子
研修領域	● 総合診療Ⅱ、内科、小児科、 ● 救急、選択研修		
病院概要	● 病床数 401床 ● 臨床研修基幹病院		



病院名	埼玉西協同病院	熊谷生協病院	秩父生協病院
研修指導医	● 吉野 肇(院長)	● 小堀勝充(院長) ● 宮岡啓介 ● 田中豊基	● 山田昌樹(院長) ● 吉野隆之
研修領域	● 総合診療Ⅱ(● 内科)	● 総合診療Ⅱ(● 総合診療Ⅰ) ● 小児科(● 内科)	● 総合診療Ⅰ
病院概要	● 病床数 50床 (一般26床、地域包括ケア病床24床、 2019年、99床に増床予定) ● 外来 ● 訪問診療	● 病床数 105床 (療養型病床55床、一般病床26床、 地域包括ケア病床24床) ● 外来 ● 訪問診療	● 病床数 75床 (回復期40床、療養型病床35床) ● 外来 ● 訪問診療

教育施設紹介(診療所群)

病院名	さいわい診療所	大井協同診療所	おおみや診療所	川口診療所
研修指導医	● 関口由希公(所長)	● 増山由紀子(所長)	● 山田晃務(所長)	● 高橋 慶
研修領域	● 総合診療Ⅰ	● 総合診療Ⅰ	● 総合診療Ⅰ	● 総合診療Ⅰ
診療所概要	● 外来 ● 訪問診療			

SGFAMの養成する
総合診療医・家庭医

- 診療所でも、中小病院でも、大病院の総合診療科でも働くことのできる医師
- 得意分野、サブスペシャリティを持って働くことのできる医師
- 臨床、教育、研究のバランスを自ら考え、生涯学び続けることのできる医師

総合診療専門医 一般社団法人 日本専門医機構認定プログラム

さいたま総合診療医・家庭医センター 埼玉協同病院 総合診療医プログラム
さいたま総合診療医・家庭医センター 熊谷生協病院 総合診療医プログラム

- 研修基幹施設：埼玉協同病院・熊谷生協病院
- 教育施設：埼玉西協同病院・秩父生協病院・さいわい診療所・大井協同診療所・おおみや診療所・川口診療所

さいたま総合診療医・家庭医センター 埼玉協同病院 総合診療医プログラム プログラム責任者

埼玉協同病院 山田歩美

こんにちは。プログラム責任者の山田です。埼玉県は全国ワースト1位の医師数(対人口比)を長年更新し続けている場所でもあります。さらに、総合診療医・家庭医に限定すると本当に少数の医師しかいません。埼玉で地域医療をやりたい! という方、大歓迎です。



SGFAMは埼玉県で総合診療医・家庭医を育てようとプログラムや研修内容を充実させてきました。現在では、CSAやポータルフォーリオ発表会を定期的に行い、埼玉全体で後期研修医を育てようという機運が盛り上がってきています。とくにポータルフォーリオ発表会は埼玉県全域に散らばる指導医たちが一同に集まり、指導医としてのスキルを学べることも魅力になっています。

また、SGFAMのフィールドは実に多彩です。南部、西部、北部、秩父地域に院所をもち、それぞれの地域の歴史や、二次医療圏の特色があり、急性期から亜急性期、慢性期、終末期の患者さんの診療を学ぶことができます。また診療に限らず、学生や初期研修医に対する教育、患者教育、組合員さん向けの教育の機会もたくさんあります。さらに、診療所運営に関わり、マネジメントについての学びもあります。そして、後期研修医のみならず、学会で臨床研究の成果を発表してもらっています。

少しでも興味のある方は、ぜひSGFAMの門をたたいてみてください。一緒に医療活動ができることを楽しみにしています。

さいたま総合診療医・家庭医センター 熊谷生協病院 総合診療医プログラム プログラム責任者

熊谷生協病院 小堀勝充

2019年度より、熊谷生協病院が県北地域では2つ目の総合診療医プログラムに認定されました(県内では18施設が認定)。熊谷生協病院を基幹病院とし、明戸大塚医院や医療生協さいたまのセンター・拠点病院や診療所などとタッグを組んでプログラムを実施していきます。



総合診療医は性別や臓器、年齢を問わず、患者さんや家族からの相談になんでも対応するだけでなく、患者さんの家族や患者さんの暮らす地域をも診ることのできる医師です。研修期間中は、入院や外来診療はもちろん、在宅医療や介護ケア、予防や教育にも関わってもらいます。また、地域住民のあらゆる健康問題に対応できるよう、院内での会議・委員会活動への参加、地域での組合員活動、医学生・初期研修医や他職種への教育活動なども行ってもらいます。

「総合診療医」は地域で暮らす人々を診る医師です。熊谷地域で十分な知識・経験を持ち、患者さんから信頼される医師が輩出できるよう、責任者として気が引き締まる思いです。また、この研修プログラムは指導する医師・コメディカルをはじめ、熊谷市医師会・歯科医師会・薬剤師会などの連携なしには成功しえません。立派な総合診療医を育てられるよう、時には温かく、時には厳しくご指導賜りますようお願い申し上げます。

医療生協さいたま 総合医・家庭医プログラム

プログラム責任者：関口由希公(さいわい診療所)

- 研修教育施設：埼玉協同病院・埼玉西協同病院・熊谷生協病院・秩父生協病院・さいわい診療所・大井協同診療所・おおみや診療所・川口診療所

秩父生協病院 地域で必要とされる医師になるための家庭医療後期研修プログラムver2.0

プログラム責任者：山田昌樹(秩父生協病院)

- 研修教育施設：秩父生協病院・熊谷生協病院・埼玉西協同病院・埼玉協同病院

セカンドキャリア支援プログラム

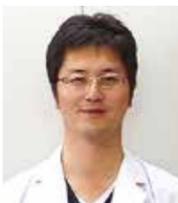
SGFAMでは、専門医研修を修了し、さらなるキャリアアップを目指す方、復職を希望される方を対象にしたプログラムも提供しています。

- 診療所でのマネジメントを学びたい方、地域で開業・継承をお考えの方 → 「診療所マネジメントプログラム」

診療所マネジメントプログラム 2018年9月修了

三輪佳雅 所属事業所：さいわい診療所・川口診療所・熊谷生協病院・埼玉協同病院

2017年から診療所マネジメントプログラムの1期生として参加されました。実家の医院を継承することが決まっている中、また、SGFAMとしても初めてのプログラム受入れのため、全ての面において課題を持って取り組んでいただきました。「訪問診療を通じてBPSモデルを意識するようになった」「他科研修(小児科・皮膚科)は大きな財産になった」「会議に参加して経営について考えさせられた」等のフィードバックを置き土産に、現在は埼玉県熊谷市で『三輪医院』の三代目として活躍されています。



- 子育て等が落ち着き、診療所で復職をお考えの方 → 「子育て女性医師支援診療所勤務プログラム「さくら草」」

2018年度 SGFAM企画開催・活動一覧

レジデントデイ開催日程	日本プライマリ・ケア連合学会開催企画等	医療生協さいたま・SGFAM企画その他
2018年4月 4月21日(土)		
5月 5月19日(土)		
6月	6/16(土)~20(日) 第9回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(三重県津市)	
7月 7月21日(土)	7/15(日)~16(祝・月) 家庭医療専門医試験(品川)	
8月 8月18日(土)	8/4(土)~6(月) 学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー(神奈川県湯河原)	
9月 9月15日(土)		9/28(金) 熊谷生協病院地域連携懇親会(埼玉県熊谷市)
10月 10月20日(土)		
11月 11月17日(土)	11/16(金) 埼玉プライマリ・ケア研究会(埼玉県さいたま市) 11/18(日) 第7回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会(千葉県千葉市)※佐藤順紀医師ポスター発表	11/24(土) SGFAMプライマリ・ケア講習会「小児予防接種」@熊谷生協病院
12月 12月15日(土)		12/26(水) プライマリ・ケア学生実習@浦和民主診療所、川口診療所、行田協立診療所、秩父生協病院
2019年1月 1月19日(土)		
2月		2/16(土) CSA(Clinical Skills Assessment)@埼玉協同病院
3月	3/16(土) 第4回埼玉ポートフォリオ発表会(埼玉県熊谷市)	3/16(土) SGFAMプライマリ・ケア講習会「診療所救急」(埼玉県熊谷市) 3/24(日) CFMD-診療所看護指導者研修修了式・ポートフォリオ発表会(東京都渋谷区)

レジデントデイでは、専攻医と指導医が月に1回集まり、研修について振り返りを行います。

開催場所：埼玉協同病院 他

参加者名：

- 指導医：関口、山田(あ)、高橋、小堀、増山、忍、吉野(は)、山田(ま)、吉野(た)、山田(て)、田中、宮岡、平澤、久保地、稲村
- レジデント：村岡、佐藤、松村
- マネジメントプログラム：三輪
- 事務局：芦野、根岸

内容報告

4月 総合診療専攻医1年目が初めてのClinical Jazzを行い、「入院前に状態が良かった患者が、元に戻ると考えている家族の希望とのギャップに悩む症例」が報告されました。また家庭医専攻医からは「家族の元へ転居してきた高齢者が複数名おり、その患者さん達への介入について」、「看取り期になってから特養に入所した認知症患者の一例」が報告されました。また指導医からは「プライマリ・ケアと患者中心の医療」のレクチャーを行われました。

5月 専攻医が毎週初期研修医向けに臨床推論のレクチャーを実施することとなったため、「インストラクショナルデザイン」についてのレクチャーが行われました。専攻医からは、往診のひとり立ちができるようになった、初期研修医と一緒に病棟診療を進められるようになったという報告がされました。

7月 家庭医療専門医試験を受験した研修医から試験報告が行われました。これから受験予定の専攻医から様々な質問が出ていました。夏期セミナーに参加する専攻医からはセッション内容の説明が行われ、全体でプレ・ポストテストの内容検討を行いました。また医学生の参加もあり、プライマリ・ケア連合学会学術大会の参加報告が行われました。また指導医から「効果的なレクチャーとは」についてのレクチャーが行われました。

8月 夏期セミナーに参加した専攻医からセッションの概略とアンケートの結果についての報告が行われました。受け持ち患者で悩んでいる症例について報告され、四分法を用いての検討を行いました。指導医からは「リーダーシップ」のレクチャーが行われました。

9月 診療所マネジメントプログラムの研修修了報告が行われました。診療所マネジメントプログラム研修を行うまでの経過、研修スケジュールと開業準備の流れについて、よかったこと、

課題について報告がされ、報告修了後は指導医や専攻医から多くの質問が出ており、今後のマネジメントプログラム研修の改善につながる意見をもらうことが出来ました。

10月 専攻医から緩和ケア病棟に入院している患者で、治療方針について悩んでいる症例の報告がされました。また外来診療がスムーズになり始めたことも報告されていました。

11月 第7回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会に参加する専攻医が予演会を行いました。指導医からは「プロフェッショナリズム」のレクチャーが行われました。

12月 専攻医からは健診結果返しや慢性管理の悩みについて、もやもやした症例についての報告がありました。指導医からは「施設管理・運営に関する質改善」のレクチャーが行われました。

1月 専攻医から「末期患者の治療適応について悩んだ症例」、「治療を中断する若年患者への対応」について報告されました。指導医からは「家族志向のケア」のレクチャーが行われました。



臨床実技試験(CSA: Clinical Skills Assessment) 模擬試験

開催日：2019年2月16日

開催場所：埼玉協同病院専門外来診察室

参加者名：■ 評価者：(医師)関口、山田(あ)、高橋、久志本 (看護師)岩隈、坪井、野崎
■ 模擬患者：医療生協さいたまSPの会

内容報告

CSA(CSA: Clinical Skill Assessment)は医師の臨床技能を評価するための試験で、模擬患者さんに対して診療を行い評価をします。家庭医療専門医試験でも実施されている試験です。SGFAMでは昨年度より実施し、今回で2回目の開催となりました。受験者は、佐藤順紀医師、松村憲浩医師、松村綾医師、外部プログラムから参加の医師、計4名が受験しました。また、評価者はSGFAM指導医に加え、診療所・老健の看護長さんが担当。模擬患者さんは昨年に引き続き「SPの会」の皆さんが協力してくれました。SGFAMは医師研修を多職種、地域の方々を巻き込んで実施していくことを目標にしています。「プライマリ・ケアを担う医師を、多職種・地域住民を巻き込みながら、地域で育てていく」これが、SGFAMの目指す医師養成です。

評価者感想の感想

さいわい診療所看護長 岩隈 望



第2回臨床実技試験(CSA: Clinical Skill Assessment)CSAの評価者として初めて参加させていただきました。正直なところ、看護師用の評価表が手元にあるものの、個人の主観になるところもあり評価には苦慮しました。模擬患者役の方が診療の声掛けに感動して涙される場面や若い先生方の真剣なまなざしや診療場面を見学でき初心を思い出しても刺激を受けました。

そして、今回の参加で組合員さんが模擬患者役、法人外の医師の参加、昨年受験者の医師の参加、奨学生の参加、介護施設の看護長さんの参加など、医療・介護・看護活動を支える全ての人々が連携し、法人内外関係なく埼玉県総合診療医・家庭医を地域で育成という目指されているものが実感として伝わってきました。ぜひ、次年度以降も多職種で協力してSGFAMを盛り上げられたらと思います。

CSAにご協力いただいた皆様より



佐藤光子さん

家庭医療専門医試験・臨床実技模擬試験に前年に引き続き参加をしました。毎月のSP実習とは異なり、実際の診察を想定した内容なので、責任の重さを感じました。模擬患者を演じるにあたり、シナリオのねらいは何かをしっかりと捉えて、患者の思いが伝わるよう心がけました。フィードバックではPNPを意識し、素直な気持ちで感じたことを伝えました。女性医師との対話の中で、今まで頑張ってきた患者に対して労いの言葉をかけられた時には、思わず涙を流すほど感動しました。これからも家庭医をめざすドクターに少なからず役に立つ模擬患者になれるよう、更にレベルアップしていきます。



林 政美さん

試験を受ける医師たちと私は初対面なのでとても緊張していましたが、事務局の方や評価者たちのリラックスした会話で、落ち着かせてくれました。模擬試験では一人10分の時間で日常診療のシナリオを場面に行い、評価をフィードバックしました。私が演じた模擬患者は、健康診断の結果から、生活習慣を見直していくという内容でした。時間内に的確にポイントを絞り、質問を含めて診察していく姿は頼もしく感じました。私は初めての参加でした。医師の研修に組合員が係わるという貴重な体験をさせていただきありがとうございました。



杉浦訓子さん

1次救急ステーションの模擬患者をしました。質問された事だけに答えるという基本を大切に参加させて頂きました。「もっともっと、何でもいいから聞いて」という思いを持った場面もありました。また、どの位まで演技をしていいのかがなっていました。事前に細かな演技指導や打合せがあり、無事に終わったことに感謝するのみです。戸惑いながらの対応となり、とても反省しています。やはり事前の打合せ等はとても大切だと痛感しました。

医療生協さいたまSPの会 紹介

活動目的

医療生協さいたまSPの会(以下、「SPの会」)は、職員の対話力やサービスの向上を目的に活動しています。さらに模擬患者さんは、医療現場が理解でき「賢い患者」につながります。



活動実績

2018年度のSPの会の活動は大きく分けて3点になります。

1. 埼玉協同病院におけるSP実習

毎月第2木曜日を基本に実施しました(5職種13名)。ファシリテーターからは、髪の毛をいじる、マスクを触るなどの癖がなくなったとの報告をいただいています。

2. 会員拡大

11月14日、福井みどり先生(ライフ・プランニング・センター)を講師に模擬患者になるための基礎研修を実施。66名が参加しました。

3. 模擬患者の引き出しづくり

- ①参加型ミニ学習
- ②フィードバックの基本練習
- ③医療知識のミニ学習会
- ④既存のシナリオの見直しとオリジナルシナリオづくり



キーワードは「アクションリサーチ」です。SPの会はボランティア活動の一環ですので、利用委員会のもとに位置づけて活動を展開することで、会員拡大や組合員の経営参加につながると考えます。また、医療知識を高めることは「賢い患者」活動も高まります。そして、具体的な問題点を見つけ、話し合い、改善し、また問題点を見つける(PDCAサイクル)によりお互いが切磋琢磨することができます。

久志本医師より、「昨年、家庭医療専門医模擬試験に参加をさせていただき、無事試験に合格したのですよ。ありがとうございました」とのお声掛けをいただきました。それは、SPさんたちが自分たちの活動の成果を感じた場面でした。初めてのキラキラ体験にブラボー!

これからもたくさんのキラキラを体感できるよう、ご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

SPの会事務局 秋葉洋子

開催日：2019年3月16日

開催場所：熊谷駅直結ティアラ21 ハートピア会議室 主催：明戸大塚医院(熊谷市川原明戸)、熊谷生協病院

共催：日本プライマリ・ケア連合学会埼玉県支部

内容報告

埼玉ポータルフォーリオ発表会は、2016年に県内の家庭医療専門研修の専攻医を対象に、ポータルフォーリオ作成の支援を目的に始まりました。様々な地域で活躍するプライマリ・ケア指導医から直接アドバイスをもらえる機会であり、専攻医にとっても貴重な学びの場となっています。また、県内のプライマリ・ケアに携わるスタッフの交流の場としても活用いただいています。

今年の埼玉ポータルフォーリオ発表会は「日本一暑い！ 熱い！ 県北地域」での初開催として、新幹線も秩父鉄道も停車する熊谷駅直結ティアラ21が会場となりました。3月16日の発表会当日は、医師23名、事務局7名の参加がありました。はじめにさいたま市民医療センターの石田岳史先生から開会のご挨拶を頂き、その後のアイスブレイクでは、埼玉地域自慢と施設紹介として、事務局の小芝居(?)を挟んで5病院から自地域と自病院の紹介をしていただきました。学習企画では、明戸大塚医院の大塚貴博院長のポータルフォーリオ作成に向けたミニレクチャーの後、3つのグループに分かれて作成支援ワークショップを行いました。ワークショップは、まず、ポータルフォーリオ発表者である専攻医から事例を紹介し、その後、指導医や見学者から報告内容についてアドバイスをもらうという形式です。専攻医はいずれも緊張した面持ちでしたが、指導医や周囲からの熱心なアドバイスに耳を

傾け、時には周囲が緊張を和らげようと笑いをとる場面もありました。

参加後のアンケートでは、指導医からは「実践的であった」「作成者と対話ができた」など、専攻医からは「ポータルフォーリオの書き方・評価の仕方がわかった」「頻回開催を希望です！」などの感想が寄せられ、指導医・専攻医ともに充実した発表会となりました。

今後も県内のプライマリ・ケアがより活発となるよう、事務局としてもさらなる企画を練っていきたくと思います。第4回ポータルフォーリオ発表会にご協力頂いた皆様、ありがとうございました。



【プレ企画】第2回・SGFAM プライマリ・ケア講習会

熊谷生協病院 事務 鶴本里香

スタッフの少ない診療所(病院)を想定し、急患対応・トリアージ・臨床推論・専門職連携(記録)などについて実践的な学習を行い、現場ですぐに活用できることを目的に「プライマリ・ケア救急」講習会を熊谷で開催しました。

講師には熊谷生協病院非常勤医師の遠井敬大先生(東京医科大学病院 総合診療科 家庭医療専門医)を迎え、専攻医3名、看護師、訪問看護師、事務など多職種に参加があり、グループワークを中心に多くのことを学ぶことができました。

診療所外来で緊急性の高い疾患の患者や急変に遭遇したときにどう対応したらよいか、後方病院との関係性の構築や救急搬送時の伝達すべき必要事項などの重要性についても学ぶ良い機会でした。また実際に現場で起きた事例に対して的確なアドバイスなどもあり今後の活動に活かせる講習会となりました。



第1回は11月24日に熊谷生協病院で小児予防接種の講習会を行いました。

開催日：2018年8月6日

開催場所：神奈川県湯沢下郡河原町

内容報告

家庭医療学夏期セミナー(TRPGワークショップ)

例年参加している夏期セミナー。参加者が楽しい!と思えるワークショップをしたい...という思いから今年はTRPG(テーブルトーク・ロールプレイングゲーム)を活用したセッションを開くことになりました。総合診療医・家庭医が日々の診療の中で出会う「複雑困難事例」を全体テーマに据え、TRPGを用いながら参加者が演じ、参加者同士で対話しながら事例紹介・解決へのヒントを探索していきます。そこに家庭医療の理論やスキルをエッセンスとして加えながらも、ゲーム感覚で家庭医療を学習できる新しい形のWSを開催することができました。WS終了後の参加者アンケートでは「自身が所属する施設でWSを実施して欲しい」「同じようなWSを自分自身で開いてみたい」という

回答が複数寄せられ、当初の楽しいWSを!という目標は達成できたのではないかと思います。今回の「家庭医TRPG」をさらに発展させ、家庭医に興味のない人でも家庭医に楽しみながら触れることのできるツールとして活用していきたいです。



プライマリ・ケア学生実習

開催日：2018年12月26日

見学者の学年と見学院所内訳：1年生▶浦和民主診療所 2年生▶行田協立診療所
2年生▶秩父生協病院 3年生▶川口診療所

内容報告

プライマリ・ケア学生実習

2018年12月26日、プライマリ・ケアに興味関心を持つ医学学生4名が医療生協さいたまのフィールドを使用し、外来見学実習を行いました。

この実習の目的は以下の通りです。

- ①医師の外来診察における医療面接を見学。
 - ②プライマリ・ケアを実践している医師・医療者のいる院所での見学。
- 見学内容に関しては外来診察に際しての診察室見学や個別送迎の同乗、他職種インタビュー等を行いました。

学生さんからは『先生と患者さんの会話。すでに先生と患者さんの信頼関係が

できているようだった。「最近膝が痛くて」や「立ちくらみがする」というような患者さんの相談をひとつひとつ丁寧に答えていた。その中でも話の長い患者さんにはキリの良いところで上手く話を終わらせていて、コミュニケーション力がすごいなと思った』といった感想があり、実習の目的を達成できたと思います。



第9回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(三重県津市)

開催日：2018年6月16日、17日 開催場所：三重県総合文化センター/三重県総合博物館(MieMu)

SGFAM参加者 演題発表一覧



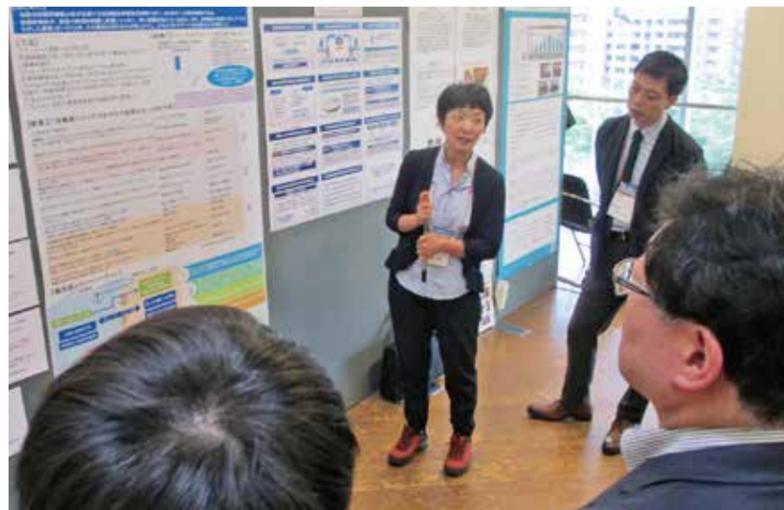
関口由希公
(医療生協さいたま さいわい診療所)

- 「診療所マネジメント・プログラム」の活動報告
- 一般内科外来における愁訴に関する多施設共同研究(第3報)その2
～復職医師の外来研修に向けて～



小堀勝充
(医療生協さいたま 熊谷生協病院)

- 当院における在宅看取りの現状と課題



山田歩美
(医療生協さいたま 埼玉協同病院)

- 初期研修医と倫理的課題にどうとりくむか
～初期研修医のアンケートから見たこと～



芦野 朱
(医療生協さいたま SGFAM)

- プライマリ・ケアを担う事務の能力開発支援学習企画を開催して～診療所事務のコンピテンシー(第3報)～
- ADDIEモデルを用いた家庭医療学夏期セミナー・ワークショップの実践報告



松村憲浩 ※写真中央
(医療生協さいたま 埼玉協同病院 専攻医)

- 生活保護受給者の救急要請は不適切なのか？～地域急性期病院内の二次救急における重症度に関する検討～

第7回 日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会(千葉県千葉市)

開催日：2018年11月18日 開催場所：TKPガーデンシティ千葉



佐藤順紀
(医療生協さいたま埼玉協同病院 専攻医)

- 卓上ゲームで学べる家庭医療学～TRPGを用いた、実践的な家庭医療学習方法の報告～

